

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年の3月31日まで
定時株主総会	6月
基準日	定時株主総会… 3月31日 期末配当… 3月31日 中間配当… 9月30日
公告方法	電子公告 ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 [公告掲載ウェブサイトアドレス] https://www.seiko-co.com/
単元株式数	100株

株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	東京都府中市日鋼町1-1 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711 (通話料無料) (郵送先) 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行 証券代行部
特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同連絡先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031 (通話料無料)

■住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申し出先について

株主さまの口座のある証券会社にお申し出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主さまは、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行にお申し出ください。

■未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行にお申し出ください。

■「配当金計算書」について

配当金支払いの際に送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。

◎ホームページのご案内◎

最新のIR情報につきましては、
当社のホームページ「IR情報」を
ご参照ください。

<https://www.seiko-co.com/>



見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。



証券コード：6286

第124期 株主通信

2025年4月1日 ▶ 2026年3月31日

あなたのそばに 静甲グループ

毎日の暮らしからものづくりの現場まで、あなたとつながる静甲です



INDEX

静甲グループの事業領域……………	02	連結財務諸表……………	07
ごあいさつ……………	03	トピックス……………	09
財務ハイライト……………	04	会社概要／株式の状況……………	10
事業別の概況……………	05		

産業機械事業

包装機械等の製造販売、及び保守メンテナンス



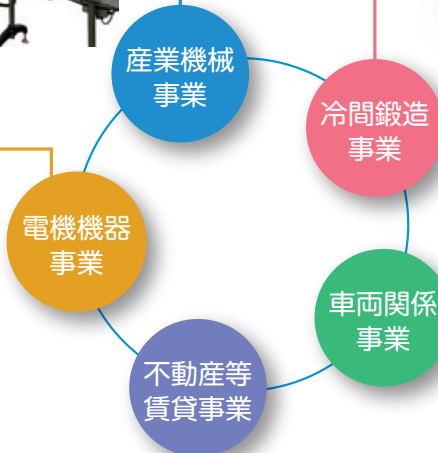
冷間鍛造事業

冷間鍛造製品の製造販売



電機機器事業

FA機器・空調機器・冷凍機器・太陽光発電機器等電機機器の販売及び空調設備等設置工事



車両関係事業

車両及びその関連商品の販売修理



不動産等賃貸事業

駐車場経営及び貸自動車事業等

グループ会社

- 日本機械商事株式会社 (連結子会社) 包装機械の販売及び保守メンテナンス
- 株式会社エコノス・ジャパン (連結子会社) 殺菌装置、食品加工機械等の製造販売
- 株式会社共和テック (連結子会社) 産業機械の製造販売及び保守メンテナンス
- 静岡スバル自動車株式会社 (連結子会社) スバル車の販売修理
- 静岡バイオオート株式会社 (連結子会社) ボルボ車の販売修理
- 株式会社PUREST (連結子会社) ボルシェ車の販売修理
- 株式会社Cool the Earth (連結子会社) BYD車の販売修理
- 静岡自動車株式会社 (連結子会社) 駐車場経営及び貸自動車事業
- エススタッフサービス株式会社

株主の皆さまには平素より格別のご高配を賜りありがたく厚くお礼申し上げます。さて、当社第124期（2025年4月1日から2026年3月31日まで）の株主通信をお届けするにあたり、ごあいさつ申し上げます。

当期の業績について

当連結会計年度におけるわが国の経済は、企業収益の改善やインバウンド需要の回復が景気を下支えした一方、物価高騰による個人消費の抑制や国際情勢の緊迫化などを背景に、依然として先行き不透明な状況で推移しました。当社の主要取引先である製造業各分野においても、変化する外部環境への適応が進められました。自動車分野では、米国による追加関税措置の施行や環境規制の緩和方針が具体化したことで、各メーカーは北米を中心とした生産・販売体制の再構築を余儀なくされました。特に、世界的なEVシフトの減速とハイブリッド車への需要集中が鮮明となり、サプライチェーン全体で生産ラインの柔軟な組み換えが加速しました。食品・化粧品分野では、高付加価値商品を求めるインバウンド需要が高い水準で継続し、生産活動は堅調に推移しました。一方で、円安による原材料・エネルギーコストの負担を吸収するため、自動化や省力化への投資が進みました。FA・FA機器分野では、次世代半導体及びデータセンター向けの需要が拡大期に入ったものの、自動車関連の設備投資抑制が響き、業種間での需要動向に差が生じる展開となりました。建設業界では、都市再開発の大型案件や防災投資、既存建物の脱炭素化リニューアル需要が堅調でした。しかしながら、資材価格の高止まりに加え、深刻な技能者不足が工期の長期化を招いており、DX等を活用した施工効率化へのニーズが更に高まっています。

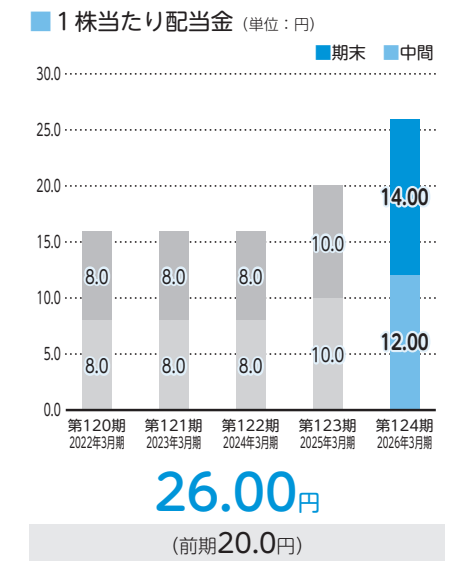
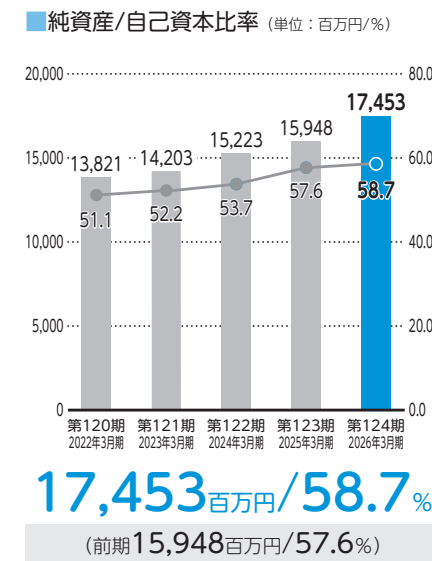
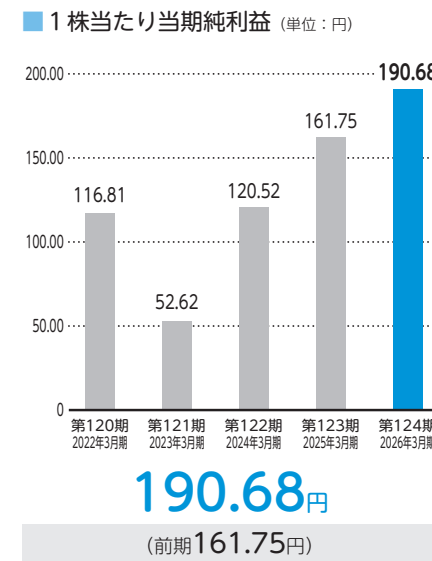
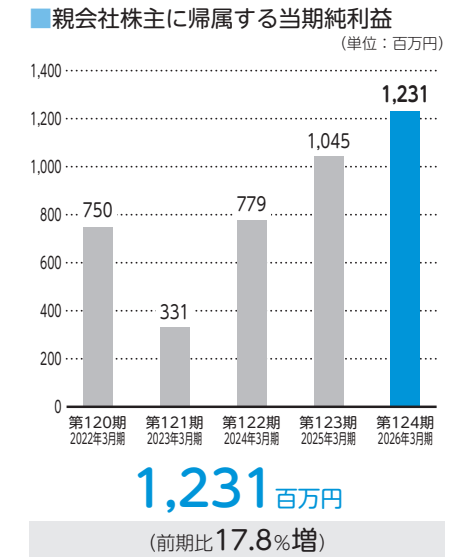
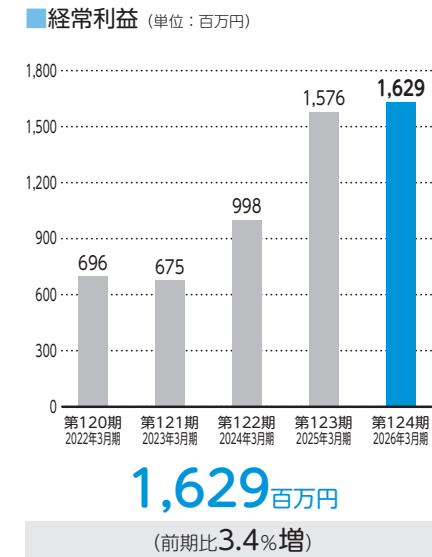
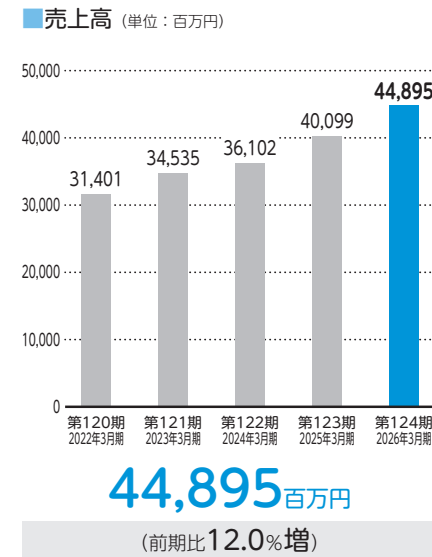
このような環境下、当社グループの当連結会計年度の経営成績は、産業機械事業における大型案件の獲得や車両関係事業の伸長により、売上高は前年同期比12.0%増の448億9千5百万円となりました。利益面においては、増収効果に加え、生産性向上による原価低減に取り組んだ結果、営業利益は前年同期比25.0%増の17億8千6百万円となりました。経常利益は前年同期比3.4%増の16億2千9百万円となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は、政策保有株式の売却益を計上したことにより、前年同期比17.8%増の12億3千1百万円となりました。

今後の見通しについて

当社グループの次期の見通しにつきましては、産業機械事業では、大型液体充填ライン、中型・小型機共に、引き続き堅調な需要を見込んでおり、当連結会計年度の実績並みとなる見込みです。電機機器事業では、冷熱機器、空調周辺部材、空調設備工事が堅調に推移する見込みの一方、FA関連の機器販売及び製造業向けの自動化ライン、設備機器は、中東情勢などの影響による主要取引先の投資抑制が懸念されます。これらの結果、電機機器事業全体では当連結会計年度の実績並みとなる見込みです。冷間鍛造事業は、一部主要取引先に中東情勢による懸念があるものの、当連結会計年度の実績を上回る見込みです。車両関係事業では、スバル新車販売における新型EVの投入や引き続きのフォレスターの牽引、輸入車は販売車種の拡充に加え、サービス部門の安定成長により、事業全体では当連結会計年度の実績を上回る見込みです。また、継続的な採用や人材育成の実施、組織体制の最適化、働きやすい労働環境の整備、福利厚生の拡充など、中期経営計画の実現に向けた『人的資本への先行投資』を一段と加速させます。これに伴い、販管費の増加を見込んでいますが、これは持続的な企業価値向上に向けた不可欠な投資と位置付けており、中期経営計画の着実な達成を引き続きめざしております。以上の結果、2027年3月期における当社グループの売上高は460億円、営業利益は16億円、経常利益は17億円、親会社株主に帰属する当期純利益は10億円となる見通しであります。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

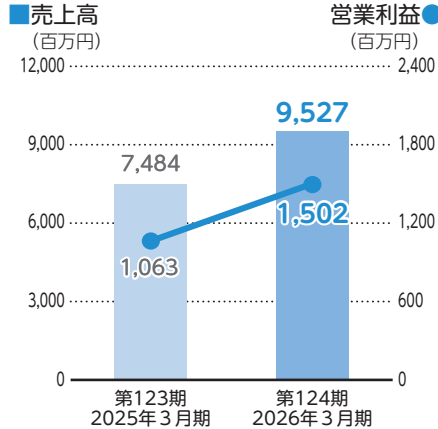
2026年6月
代表取締役社長執行役員 鈴木孝典



産業機械事業

売上高
9,527百万円
(前期比27.3%増)

営業利益
1,502百万円
(前期比41.3%増)

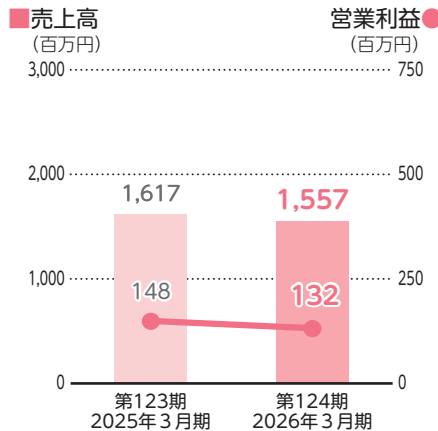


概況
包装機械においては、かねてより実施しておりました人的資本への積極的な投資が奏功し、営業体制の強化による既存顧客の深耕により受注が拡大しました。労働力不足や人件費・エネルギーコストの高止まりを背景に、顧客企業のニーズが省人化・生産効率の向上へとシフトしており、これに伴い主力である食品業界向けの大型液体充填ラインの受注が堅調に推移しました。また、多様化する消費者ニーズにより、化粧品・医薬品業界等で需要が高まっている多品種少量生産に適した中型・小型の充填・包装機械も、顧客の柔軟な生産体制への寄与により受注が伸長しました。

冷間鍛造事業

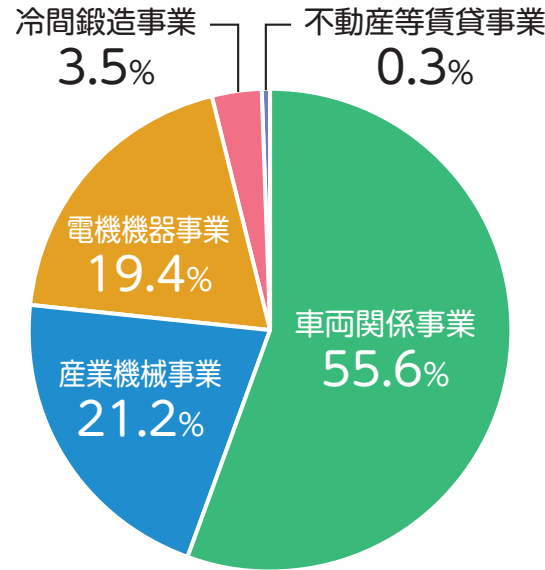
売上高
1,557百万円
(前期比3.7%減)

営業利益
132百万円
(前期比10.7%減)



概況
機械工具部品は、主要納入先の減産による調整の影響を受け、前年同期の実績を下回る結果となりました。自動車部品及び産業機械部品については、納入先の輸出停滞という下押し要因はあったものの、期後半の一部需要の回復に伴う増産対応により、前年同期並みの実績となりました。また、次世代モデルの開発案件に伴う試作・金型の受注が堅調に推移し、前年同期の実績を上回りました。

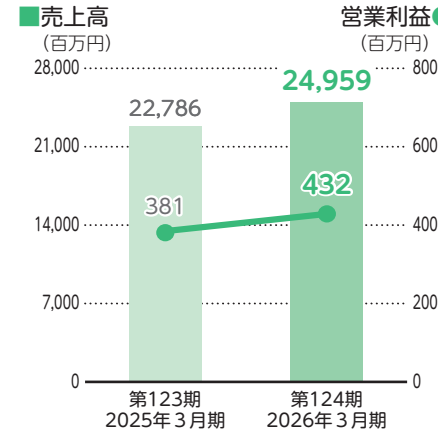
売上高合計
44,895百万円



車両関係事業

売上高
24,959百万円
(前期比9.5%増)

営業利益
432百万円
(前期比13.3%増)

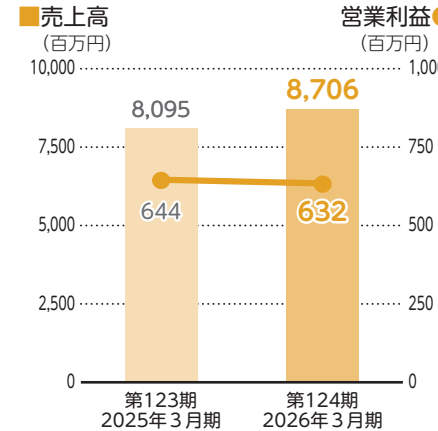


概況
スバル新車販売は、期後半の新型フォレスターが牽引し、前年同期の実績を上回りました。中古車販売についても、下取査定強化による在庫の確保と堅調な中古車需要により、前年同期の実績を上回りました。サービス部門では、車検・点検の入庫促進に加え、付加価値の高いメンテナンス商品の提案強化が奏功し、前年同期の実績を上回りました。輸入車販売についても前年同期の実績を上回りました。

電機機器事業

売上高
8,706百万円
(前期比7.5%増)

営業利益
632百万円
(前期比1.8%減)



概況
主力のFA関連におきましては、主要納入先における設備投資需要の低下が継続し、システム案件の受注が低調となり、前年同期の実績を下回る結果となりました。一方で、企業の環境経営やリスク管理への意識の高まりを背景に、空調・設備機器は省エネ性能に優れた機器やBCP対応を目的とした大型の設備更新案件により、前年同期の実績を上回りました。空調周辺部材及び冷熱機器の販売も年間を通じて堅調に推移し、業績を支えました。

不動産等賃貸事業

売上高
145百万円 (前期比25.2%増)

営業利益
157百万円 (前期比30.4%減)

連結貸借対照表

	当 期 2026年3月31日現在	前 期 2025年3月31日現在
資産の部		
流動資産	16,234,275	15,544,587
現金及び預金	7,344,364	7,095,998
受取手形、売掛金及び契約資産	3,884,095	3,773,157
電子記録債権	1,073,578	707,537
たな卸資産	3,297,223	3,383,316
その他	665,988	612,442
貸倒引当金	△ 30,976	△ 27,866
固定資産	13,499,262	12,135,787
有形固定資産	9,985,924	8,890,670
建物及び構築物	4,743,251	3,557,887
土地	3,189,877	3,189,877
その他	2,052,793	2,142,903
無形固定資産	123,140	141,972
投資その他の資産	3,390,197	3,103,145
投資有価証券	3,029,405	2,736,492
その他	365,520	371,383
貸倒引当金	△ 4,729	△ 4,732
資産合計	29,733,538	27,680,375

(単位：千円)

	当 期 2026年3月31日現在	前 期 2025年3月31日現在
負債の部		
流動負債	11,008,605	10,204,132
支払手形及び買掛金	3,576,699	3,639,699
その他	7,431,903	6,564,433
固定負債	1,271,524	1,527,290
負債合計	12,280,130	11,731,422
純資産の部		
株主資本	16,117,236	15,027,907
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	3,159,341	3,159,341
利益剰余金	12,863,726	11,774,354
自己株式	△ 5,832	△ 5,788
その他の包括利益累計額	1,336,171	921,045
その他有価証券評価差額金	1,336,171	921,045
純資産合計	17,453,407	15,948,952
負債及び純資産合計	29,733,538	27,680,375

連結損益計算書

	当 期 2025年4月 1日～ 2026年3月31日	前 期 2024年4月 1日～ 2025年3月31日
売上高	44,895,426	40,099,518
売上原価	35,336,705	31,288,207
販売費及び一般管理費	7,771,824	7,382,176
営業利益	1,786,896	1,429,134
営業外収益	180,114	180,930
営業外費用	337,047	33,605
経常利益	1,629,962	1,576,459
特別利益	257,656	61,821
特別損失	85,092	47,254
税金等調整前当期純利益	1,802,526	1,591,027
法人税、住民税及び事業税	549,416	571,375
法人税等調整額	21,646	△ 25,792
当期純利益	1,231,464	1,045,444
親会社株主に帰属する当期純利益	1,231,464	1,045,444

(単位：千円)

連結キャッシュ・フロー計算書

	当 期 2025年4月 1日～ 2026年3月31日	前 期 2024年4月 1日～ 2025年3月31日
営業活動による キャッシュ・フロー	2,784,265	3,116,344
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 2,132,963	△ 2,426,741
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 413,004	△ 2,235,057
現金及び現金同等物の 増減額 (△は減少)	238,296	△ 1,545,453
現金及び現金同等物の 期首残高	6,935,998	8,481,451
非連結子会社との合併に伴う 現金及び現金同等物の増加額	10,069	—
現金及び現金同等物の 期末残高	7,184,364	6,935,998

(単位：千円)

◎ホームページのご案内◎

最新のIR情報につきましては、当社のホームページ「IR情報」をご参照ください。

<https://www.seiko-co.com/>

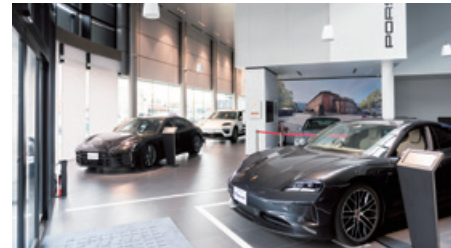


ポルシェセンター静岡 移転オープン

連結子会社である株式会社PURESTは、「ポルシェセンター静岡」を移転グランドオープンいたしました。本移転は、ブランドの哲学を深く体感いただくことで顧客エンゲージメントを強固にし、中長期的なファン層を拡大するための戦略的拠点と位置づけております。最新のブランドCIを反映した商談スペースや、歴史と技術の革新を伝えるデジタル演出により、最高峰の顧客体験を提供いたします。今後もブランド価値の最大化を通じて、持続的な事業成長を目指してまいります。



↑ポルシェセンター静岡HP



所在地：静岡県静岡市清水区長崎南町1-38

次世代技術をつくる新たなラボが始動

産業機械事業における医薬・医療分野への本格参入と、中長期的な成長エンジンの創出を目的として、静岡県東部の医療産業クラスターの中核「ファルマバレーセンター」内に新たな研究拠点「静甲株式会社ファルマバレー・メディカルラボ」を新設いたしました。本ラボでは、当社のコア技術（充填・包装）を医薬・医療分野へ応用するだけでなく、医療現場の最先端ニーズをダイレクトに吸収した次世代ソリューション開発を推進します。官民連携の強みを最大限に活かし、高付加価値な新事業の確立と企業価値の向上に邁進してまいります。



写真：静岡県医療健康産業研究開発センター（ファルマバレーセンター）

会社概要

(2026年3月31日現在)

社名	静甲株式会社 (SEIKO CORPORATION)
本社所在地	静岡県静岡市清水区天神二丁目8番1号
設立	1939年(昭和14年)5月18日
資本金	1億円
従業員数	428名(単体) 892名(連結)

役員

(2026年6月25日現在)

代表取締役 社長執行役員	鈴木 孝典
取締役 常務執行役員	吉川 範幸
取締役 執行役員	山下 一弘
取締役 執行役員	一圓 昌幸
取締役 執行役員	齋藤 敏典
社外取締役	杉本 基
社外取締役	関本 和彦
社外取締役	音成 秀樹
取締役 (常勤監査等委員)	櫻井 嘉夫
社外取締役 (監査等委員)	山口 貴史
社外取締役 (監査等委員)	野々山 茂

株式の状況

(2026年3月31日現在)

発行可能株式総数	19,200,000株
発行済株式総数 (自己株式25,057株を除く)	6,458,266株
株主数	2,904名

大株主(上位10名)

(2026年3月31日現在)

株主名	持株数 (株)	持株比率 (%)
鈴与ホールディングス株式会社	1,832,260	28.37
有限会社ティ・エム・ケイ	540,600	8.37
鈴木 孝典	475,870	7.37
鈴木 恵子	427,370	6.62
株式会社静岡銀行	311,500	4.82
株式会社清水銀行	309,290	4.79
静甲従業員持株会	261,203	4.04
清水食品株式会社	204,000	3.16
鈴与自動車運送株式会社	104,000	1.61
清水運送株式会社	80,000	1.24

(注) 持株比率は自己株式(25,057株)を控除して計算しております。